

『輝け雪』のまち

ぬまた町

みんなの議会

2021年8月
第86号



マスクから
笑顔あふれる 日曜日

第2回 定例会

2

一般行政報告並びに教育行政報告、一般会計補正予算などを審議しました。

シリーズ検証

8

第5弾

● 一般質問のその後を追う
質問者 高田議員

「介護施設の再編成が必要ではないのか」

鵜野議員の一般質問

4



暮らしのあんしんセンター木梁のひび割れと対策について質問した他、8名の議員が一般質問を行いました。

デジタル化はじまる

10

議会においてタブレット端末や議場を映すカメラの導入がなされ、ペーパーレスでの議論と一階へのリモート中継が本格化しました。

令和3年 第2回 定例会

6月17～18日

町長の一般行政報告および教育長の教育行政報告の後、9名の議員が一般質問を行いました。

主 な 議 案

◎条例の改正

- ・国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- ・介護保険条例の一部を改正する条例

◎専決処分の承認

令和2年度末の事業確定による補正予算の専決処分を承認しました。

◎繰越明許費の報告

- ・新型コロナウイルス対策事業 100万円
- ・学校教育備品整備事業 170万円

繰越明許費とは？

繰越明許費とは、年度内の支出が終わらない事業について、翌年度に繰り越して使用できる経費のことです。

所管事務調査報告

産業福祉常任委員会より
上野敏夫委員長が、「コンパクトタウンを生かした福祉」の所管事務調査報告を行いました（詳細9ページ）。

一般会計等補正予算

◎令和3年度一般会計の補正予算は、4944万円を追加し、総額51億3565万円となりました。

〈主な内容〉

- ・国民健康保険特別会計繰出金 465万円
- ・子育て支援費 155万円
- ・教員住宅管理費 639万円
- ・化石レプリカ工房費 272万円
- ・ヌマタネズミイルカの復元骨格レプリカ製作を専門業者に依頼するための費用
- ・農業振興基金費（農産加工場売り払い収入） 3334万円
- ・農産加工場が今年度から民間企業の指定管理に移行したことに伴い、製品や資材の在庫を整理したことによる収入です。
- ・養護老人ホーム特別会計総務管理費 1312万円増
- ・後期高齢者医療特別会計広域連合納付金 126万円増
- ・介護保険特別会計補正予算 3342万円増

人権擁護委員の推薦

人権擁護委員の橋 英則氏、長谷川忠義氏の任期満了に伴い、新たに次の方が推薦されました。

- ・谷口 勲氏（5町内）
- ・川合康子氏（旭町東）

請 願 ・ 陳 情

- ・「日本政府に核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める」

【賛成7人、反対2人】

賛成意見

「核抑止力論」は、核兵器を使うことを前提にした考えであり、一旦核兵器が使用されれば世界が破滅してしまうことから意見書提出に賛成する。

反対意見

核兵器保有国が参加しておらず、この条約は実効性に乏しい。むしろ核拡散防止条約の方が有効なのでこの意見書提出には反対する。

・「林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める」

【全会一致】

町議会のホームページを ご利用ください

過去の議会広報誌や、議事録が見られます。

「沼田町議会」で検索！

スマートフォンはこちらから→



表紙の写真



感染防止に配慮して、全道各地から13台のキッチンカーが大集合！コロナ禍を吹き飛ばす一日となりました。

第4回臨時会

令和3年5月27日

◎令和3年度一般会計補正予算

- ・新型コロナウイルス緊急経済対策支援金 240万円

【事業概要】

北海道の緊急事態宣言により、営業時間と種類提供時間の短縮で影響を受けた飲食店の支援。時短要請に該当しなくても、外出自粛で影響を受けた飲食店を含む。
飲食店の時短営業や臨時休業で影響を受けた酒類販売店も支援。
1軒10万円×24軒。

国の支援に加えて町も独自に支援しています。

第5回臨時会

令和3年6月3日

◎議案

- ・除雪ロータリー購入契約
- ・スコーレビレッジ屋根外壁改修工事請負契約
- ・沼田中学校屋根外壁工事請負契約

◎令和3年度一般会計補正予算

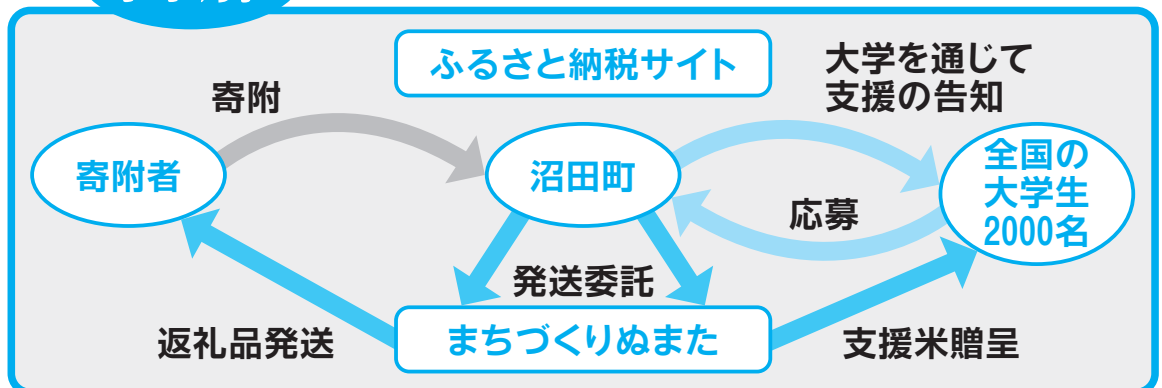
- ・キャンパスライズプロジェクト 500万円

【事業概要】

新型コロナウイルスの影響で大学生生活の継続が困難な学生への応援として、ふるさと納税の仕組みを使い、集まった募金を利用して全国の大学生に抽選で雪中米2kgを2千名に贈る。寄附者にも返礼品として雪中米などを送る。

ふるさと納税の仕組みを利用した寄附のスタイルは、これから増えていきそうですね。

図解「キャンパスライズプロジェクト」



傍聴席の生の声

今回は途中から見てもわかりやすく、傍聴しやすかった。関係人口はとても必要だと思います。新しいことをおこなうのはいいですが、実際に使う人と話し合いをして本当に使いやすい良いものにしてほしいです。 (30代・女性)

今回の定例議会の傍聴者は、12名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしています。

町長への一般質問

問 ゼロカーボンシティ宣言を

答 今年度中に表明できるように進めたい



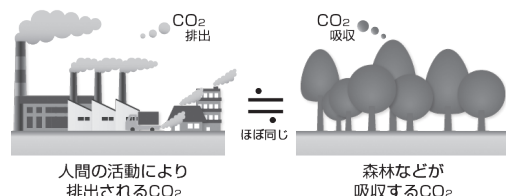
菅 地 畑
議員

問 国は2050年にCO₂を実質ゼロにすることを目指しており、各自治体では首長自らが宣言をするゼロカーボンシティの表明が増加傾向にあり、6月4日の時点では399の自治体が表明している。

沼田町は農村地帯としてバイオマス事業の可能性が高く、雪冷熱エネルギーでは先行事例がある。沼田町ならではの脱炭素に向けた取り組みを検討してはどうか。ゼロカーボンシティ宣言をする予定はあるのか、表明をするとしたらいつなのか、また宣言を前提として基本計画の青写真があるのか聞きたい。



総理大臣や環境省からは2050年に向けてCO₂ゼロにしている強い意志が出されました。2030年までに46%の削減を目標としています。行政以外にも企業や住民、各関係機関のご協力が無ければ実現できないと思います。沼田町は地球環境について早くから貢献し、特にほたるの里づくりや雪氷冷



熱エネルギーの活用について取り組んでおり、平成27年の再生可能エネルギーの調査では太陽光発電・バイオマス・雪氷エネルギーの

三つの可能性が高いと整理しました。
今年度中にはゼロカーボンシティ宣言を表明できる準備を進めたい。

問 暮らしの安心センター 木梁のひび割れと対策

答 7月中に報告し対策を示したい



之 範 野 鶴
議員

問 2017年10月にオープンしたあんしんセンターは、翌年12月に木梁のひび割れが確認された。設計施工業者の調査では、施設の乾燥と温湿度環境により引き起こされたものと報告を受け、原因は雪の荷重ではないことから雪おろしの予算計上はされなかった。

原因は積雪荷重によるものと考えられ、構造設計や施工方法でのトラブルではないため施工業者及び設計業者の瑕疵には当たらないと判断したと報告された。
来冬を迎える前にしっかりとした対策が必要であり、別の機関で調査をすることが原因究明と安全につながるのではないかと。今後、雪おろしの予算を検討するの

しました。
今年の春のひび割れは乾燥と急激な気温上昇と積雪量により大きな影響が出たものと考えられ、屋根の一部で設計上の積雪深を超過していた期間があったことも要因のひとつと考えられます。現在、設計施工業者に調査を依頼し、7月までには今後の対策を示したいと思っています。
管理上の雪庇処理ですが、設計基準を超える積雪深となる場合は適切に対応したいと思っています。調査方法ですが、場合によっては違う業者に相談して対応することとも必要かと考えます。



2017年にひび割れた原因は天然木材の集成材であり、ばらつきや乾燥によるヒビも多少はあるものの使用に問題が無いことを確認され、樹脂アンカーによる修繕で強固なものになったと判断



問 町民が利用しやすい施設の名称に

答 提案を受け通称も交えて考えてみたい



上野 敏夫
議員

問 公共施設の名前が複雑で数多くあり、町民からわかりづらいとの声を聞く。

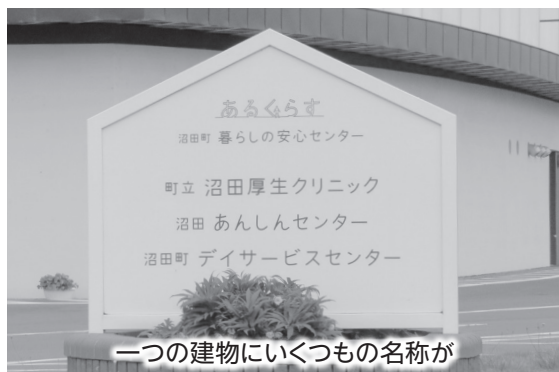
例えば、健康福祉センターすこやかホールを「健康福祉センター南ホール」にするとか、宿泊交流センター夢未来を、「宿泊棟」にするなどして、町民がすぐにわかるようなシンプルな名前にしてはどうか。

会議の案内文書も各課で統一して町内外の人にわかりやすい、町民の方を向いた名称にすべきと思う。

上野議員のそのほかの質問

問 沼田町の産業を発展させ人口増につなげては

答 新たに活動する方を迎えるチャンスと捉える



一つの建物にいくつもの名称が



公文書ですので、

例えば「ゆめつく」や「ふれあい」だけでは伝わらないこともあるので、「健康福祉総合センターふれあい」というように、正式名称に通称も交えて対応すること考えてみたい。

問 高穂スキー場の再整備計画はこれで

町長答 アイデアを出して取り組むよう指示する
教育長答 関係人口創出に向け担当課と連携を進める



高田 勲
議員

問 沼田町にある観光資源を使って関係人口になつてもらうためには何が必要なのか。高穂スキー場計画は設計費を入れて5億円の大事業であり、集客や関係人口増加に向けた取り組みを期待する。

その中でスキー合宿や、ふるさと納税の返礼品にリフト券とスキー学校のパック商品を設定するなど、アイデアを蓄積してから実施設計に入るべきだと思う。

設置責任者として、町長は実施設計に至る説明をきちんとしていたのか、関係人口へのアプローチを教育委員会に指示していたのか、職員に対してどのようなリーダーシップを発揮し

ていくのか。

教育長の報告からも関係人口へのアプローチが感じられない。このまま実施設計に入って賑わいのあるスキー場になるのか。



スキー場施設が老朽化している状況ですが、本町は「スポーツの町宣言」をしており、優秀なスキー学校もあるため整備開始を決断しました。

スキー場を活かす仕掛けが不足していたことは反省します。その一つとして「食」は重視すべきで、食堂での地元食材の提供などアイデアを指示し、この町にきた人を逃がさないようレベルアップできる環境を造りたいと思います。

教育長

厳しいご指摘をいただいたと受け止めています。関係人口についての連携が不足していました。

スキー場の関係人口をどうやって増やしていくかということは、産業創出課とも検討を進めていきます。

交流人口から関係人口につなげる可能性は、まだまだたくさんあると思っていますので、政策的な部分を含めて連携を進めます。



沼田町が誇るスキー学校と、右肩上がりの利用増を示すグラフ

問 除雪組合で除雪の空白地帯を作らない

答 まちづくりを含め総合的に判断したい



久保 元 宏
議 員

問 沼田町は雪の町であり、雪の問題での悩みも多い。

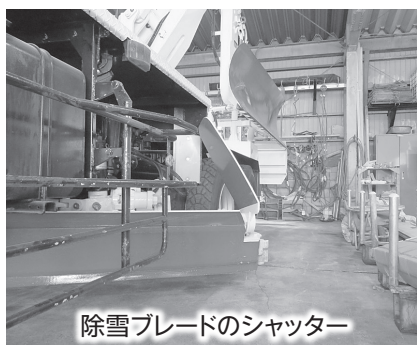
よりきめ細やかな除雪により、町外への人口流出を抑えるには、オール沼田型の除雪組合が効果的だと考える。

一つ目に、除雪の在り方について、役場や民間業者、融雪溝の管理運営協議会や自治振興協議会などが同じテーブルで議論をすることが必要ではないか。

二つ目に、除雪車についているシャッターを有効的に使用するなど、開発局や土木現業所と除雪の状況を共有し、町民の負担を減らすことが出来ないか。

三つ目に、空き地を利用し、町民や業者が町内会こ

とに雪を堆積し、定期的に町が排雪する仕組みは出来ないか聞きたい。



除雪ブレードのシャッター



問 除雪組合の設立は、今後の人口減少や高齢化、除雪事業の担い手不足を考慮すると対応の必要性を認識しています。ふるさと創造懇談会でも、

除雪業者のマナーの改善や空き地の雪捨て場利用を意見としていただきました。講習会や雪捨て場の状況は関係者の意見を整理し、町民に周知していきます。

置き雪対策の必要性も感じています。地域の状況

で不公平感が生じる恐れも想定されるので慎重に協議します。

除雪車のシャッターについては、他町の利用状況を調査し、有効に費用対効果を生むことが判断できるも

のであれば国に要請していきます。

空き地に関する排雪の負担軽減については、町有地の空き地を有効に活用する雪捨て場の利用を検討していきます。

問 地域おこし協力隊への支援は

答 問題点の解決と、踏み出せる環境を支援したい



伊 藤 淳
議 員

問 地域おこし協力隊員は、新たな発想で町に

刺激と活性化をもたらす欠かせない人材であり、卒隊後も住みつづけるための町の考えを聞きたい。

協力隊員の大半が過疎地域での起業は初めての中、事業を安定させ生活に結びつけることは、簡単ではないと考える。町として事業の成功率を上げるための支援は十分なのか聞きたい。

二つ目に、協力隊員は活

動内容により、各担当課に所属しているが、職員と協力隊員の意欲や関心に成果が左右される。計画を評価分析して、現実的かつ具体的にアドバイスできる体制作りをさらに進めるべきではないか。

三つ目に、有害鳥獣駆除対策は、本町にとって将来的にも継続して必要である。地域との信頼関係が構築された協力隊員が、技術と経験を継続して発揮できる環境の支援はできないか聞きたい。



問 協力隊員への支援は、起業する場合に100万円の補助金を

準備しており、卒隊後の起業あるいは進路に対し、専門的な視点からフォローする体制を専門業者に委託しています。

協力隊員へのサポートは、全体での交流会の開催や定住支援員と担当課が隊員に寄り添って意見交換しています。隊員の悩みの解決を始めバックアップできる体制を指示していきます。

有害鳥獣駆除に関しては、農業被害の軽減、住民の安心安全なまちづくりを進めるうえで重要な活動であり、協力隊員の任期終了後も本町で活動できる支援を行いたいと思います。



地域おこしに奮闘中

問 公共施設に換気型冷房の導入を

答 調査し必要な対策を検討する



篠原 暁
議員

新型コロナウイルスのための

問 換気対策として、公共施設に網戸の設置などが行

われた。これは換気対策としては有効だが、今後さらに加速する温暖化の中で、熱中症対策としては不十分だ。

役場の業務環境、学校の学習環境、化石体験館の展示環境の改善を考えた場合、換気型の冷房を導入するのが最適と考える。

従来型のエアコンは空間を密閉する必要があったが、技術改良によって換気と冷房を同時に行える機器が開発され、小学校のような開放型の空間でも効果を発揮できると考える。

町長は、施設の夏場の室内環境をどのように評価しているか。また、換気型冷房について情報収集や導入検討の準備はしているか。



網戸では対応できなくなっている猛暑

篠原議員のそのほかの質問

問 安心センターに新たな雪下ろしの基準が必要では

答 〔町長〕調査報告を待つて検討する

問 スティホーム期の文化財普及戦略は

答 〔教育長〕道の事業と連携して情報発信に取り組む



環境省が定める室温基準は28℃です

すが、調べたところ小学校では29℃になるときもあり、対策が必要と考えます。換気型冷房も候補として考えますが、建物の構造上どの程度有効なのか、またゼロ

問 生活困窮者の移住対策を

答 情報を発信し移住者を迎えたい



大沼 恒雄
議員

問 新型コロナウイルスの影響が長期化する中、職を失い生活が追い詰められる人が増えている。特別

貸し付けや新たな困窮者支援策も始まるが、困窮を一時的にしのぐことはできて、生活再建できた家庭はほとんど無い。

今は普通に生活している人が失職して生活保護を受けている。働く意欲はあるのだから、ハローワークの

カーボンにも配慮しなければなりません。

化石体験館も、町外から多くの方に快適な環境で利用していただくため、これまで導入したものの活用しながら、今後どのような対策ができるか検討します。

前での声かけや、貸付の窓口である社会福祉協議会の広域連携を使うなどして沼田町への移住を促すことができないか。横の連携とは、沼田町だけではなくて北空知全体の人口を増やすことにもなる。

町長はどう考えるか。



生活困窮者の移住対策として、関係課で協議をし、昨年周知

させてもらいました。実際に移住に向けて調整していた例もありますが、事情により実現しませんでした。ハローワークには担当課を通じて周知していきます。

移住相談会的なものも実施するために、調整を進めています。我が町の魅力を発信しながら、1人でも多くの移住者を迎えられるよう取り組んでいきます。



「働く」「住む」「子育て」セットで全力応援！

北海道沼田町で新しい生活を始めませんか？

コロナ禍において、職を失ってしまった会社員が収入が不安定、これを機に地方で働きたいけど知ってる人もいないし...そういった不安をかかえている方の「働く」「住む」「育てる」を全力で応援！

オールぬまで全力サポート！！

- 1.しごと
介護施設に就職するとお祝い金がでます！
- 2.住まい
仮住まいとして家具家電付きの住宅に入居可能
- 3.子育て
こども園の待機児童0人！安心の支援策がたくさん！

その他、がんばる高校生活協手当や学費保育、地域子育て支援センターなどみなさまに寄り添う支援事業がたくさんあります！！詳細はQRコードでご確認ください！

まずはお気軽にご相談ください！

コロナ禍で生活に困っている方に沼田町への移住をすすめるチラシ

教育長への一般質問

問 沼田の教育と働き方改革の両立を

答 学校の実態を把握し対応する



長野 時敏
議員

問 沼田町一貫・連携教育第3期と同時期、文部科学省から「学校の働き方改革の実現」が示された。先生の忙しさを解消し、社会全体で子どもを育むことが求められる時代となった。先生の業務は、「教材研究と学級事務である」という原点に立ち返り、次のように改革してはどうか。

一点目に校内LANで事前周知し、会議15分、研修30分など効率化を。全員でいる場面を減らし、自分で使える時間を確保し、子どもと向かい合う時間を増やしてはどうか。

二点目に留守番電話サ-

ビスによる時間外は繋がないシステム導入を。緊急時のみメール対応する。学校閉庁日は、教頭に繋がる仕組みはどうか。

三点目にスクールサポート制度による消毒スタッフ及び消毒ボランティアの配置を。コロナ禍により放課後の消毒作業が、先生の負担になっていることの軽減を図ってはどうか。

四点目にコミュニケーションスクール(以下CS)による働き方改革を手助けする仕組みを作ってはどうか。

一貫・連携教育と、志高く能力のある先生方の働き方改革をどのように両立させるのかを問う。

教育長

小・中ともにパソコンやタブレットの活用は、徐々に進んでいます。教員の扱

い方に個人差があるので指導して行きます。

留守番電話サービスについては、休日は教育委員会に繋がるシステムです。学校の実態を把握しつつ検討して行きます。

消毒ボランティアやスクールサポート制度については、人流による感染リスクが心配されます。十分注意をし、制度の確認も含め、検討して行きます。

CSは、働き方改革のためにというよりも、学校がこうしてほしいという時の応援団のスタンスで考えています。



学校応援団として動き出したCS

シリーズ検証

第5弾

一般質問のその後を追う

議員が定例会ごとに行う一般質問は、その後どうなったのか。シリーズ第5弾は令和2年3月の定例会における横山町長への高田議員の質問です。



質問する高田議員

問 介護施設の再編成が必要ではないのか

高田 勲

旭寿園では入居者の定員割れが慢性的に続いており、一般会計からの繰り入れによる赤字補填が増大しています。「和風園・なごみ」を含めて、施設の再編成が必要ではないのか。

答 入居定員の見直しを含めて、施設再編成は必要と考えている。

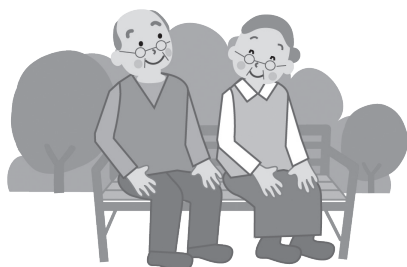
★その後の対応

旭寿園は令和2年度の実績ベースで、平均入居者が68.8人(定員80人)、一般会計からの繰入金が6,140万円となりました。

現在、町では「施設・通所・在宅」の介護体制が将来どうあるべきか、職員によるプロジェクトチームで検討が進められています。

産業福祉常任委員会 所管事務調査報告

調査目的 「コンパクトタウンを活かした福祉」



本委員会では、「暮らしの安心センター」周辺に高齢者住宅や広場等の整備が計画されていることから、「歩いて暮らせるまちづくり」の今後の展開を議論し、検討した。

高齢者の健康寿命維持と孤立防止には、交流や外出による心身への適切な刺激が効果的であり、外出や会話の頻度を高め、幸福を感じていただくことが重要であると考え、持続可能なまちづくりを目指すために以下の意見を付して調査報告とする。

(1) 旭町と暮らしの安心センターをつなぐ遊歩道の整備

歩いて暮らせる環境を推進するため、医療福祉の複合施設である暮らしの安心センターと旭町にある高齢者住宅や福祉施設をつなぐ遊歩道の整備を行い、互いの住民との交流やクリニックへの通院などを促すことが重要と考える。また、遊歩道は線路も含めて、車椅子でも気軽に外出できるようバリアフリー化への配慮も必要である。

(2) 広場の活用

広場の整備は、再会の塔や四季を通じた樹木や花の植栽などのランドマークを生かし、癒やしと健康を意識した多世代の町民が行きたくなる本町を代表する日常の憩いの場として計画するべきと考える。

また、年齢や障害の有無を超えた交流の促進を図る場として、ユニバーサルスポーツや屋外イベントでの活用も有効と考える。

「なかみち」は、歩行者や車椅子に負荷のない材質を選択し、周辺環境と調和した散策路とすることが必要である。

(3) 住民参加とボランティア組織

高齢者が地域活動や行事に参加することにより外出機会が増え、生きがいを持った生活が送れるよう、広場の清掃や花壇の管理、行事への運営協力などが効果的と考える。そのためには、社会福祉協議会が運営する高齢者就労支援事業をスキルとニーズをマッチングさせる組織として、発展的に改編すべきである。

一方で積極的に参加できない高齢者への対応も必要であり、社会福祉協議会との連携や新たにボランティアセンターを立ち上げ、機関の充実を図り参加調整を管理する組織が必要と考える。

今後の所管事務調査報告事項

総務民教建設常任委員会「まちの魅力発信」

産業福祉常任委員会「地元加工品の開発と販売の促進」

タブレットを
使用した議会が
始まりました

令和2年9月に開催された第3回定例会の一般会計補正予算において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、ペーパーレスシステムとしてタブレットを導入する予算が可決され、本年4月より運用が開始されました。



タブレットを使用し中継カメラの前で一般質問する久保議員

紙資源などの環境に配慮するだけでなく、コロナ禍や災害時のリモート会議での使用や定例会を始めとした常任委員会など、あらゆる議会活動で利用することを目的としています。

議会のデジタル化により情報共有と発信を強化し、町民との懇談においても議論が深められるよう、積極的に議会活動に活用していきます。



町長はじめ説明員もタブレットを使用

あとがき

新型コロナウイルスの世界的蔓延の発生から一年が過ぎ、経済の停滞、活動の自粛など住民生活への影響が続いています。外食産業の営業自粛や米の消費低迷から、本町の農業の根幹をなす米価の下落も懸念され、農家経済への打撃も予想されます。

全国での米在庫の大幅増の解消には数年かかると思われるようですが、現在実施されているワクチンの接種により街の活気と日常生活を取り戻し、家庭や飲食店、旅行先などで米をはじめ多くの農畜産物を味わえる時を楽しみにしています。

広報特別委員
長野時敏 篠原 暁
上野敏夫 畑地 誉
伊藤 淳

みんなの広場

地域おこしと 自伐型林業



てら き か な
地域おこし協力隊 寺木 佳奈

地域おこし協力隊としての活動も残り4ヵ月を切り、沼田町で定住するための準備を進めています。協力隊と一口にいても様々な活動がありますが、私たち夫婦は「沼田町にあるものを活かして生計を立てること」が当初からの目標でした。来たばかりの頃はどのようにして収入を得るのかは全くの白紙でしたが、その後「自伐型林業」と出会い、これを生計基盤とすべく、林業の技術を習得したり、林産物を商品化したりと試行錯誤を重ねてきました。

地域おこしという面で自伐型林業には様々な可能性があります。軽トラックとチェーンソーで始められるので少ない初期投資で参入でき、町内の森林資源をうまく活用すれば、何組もの家族が生計を立てていくことも十分可能です。また林道を山の中に張り巡らせて細やかに管理し、森を健全な状態に保つので、土砂災害防止やカーボンニュートラルなどの環境保全の分野でも貢献できます。でも何よりも自伐型林業の魅力は林道の美しさです。今後は、私たちのつくった林道で、マウンテンバイクやキノコ狩りなどを多くの人に楽しんでもらいたいです。是非、山にお越し下さい。



里山の魅力と林道の美しさ